

第3回湖南省男女共同参画懇話会(会議録要約)

- 日時 令和3年(2021年)10月14日(木) 午後2時～3時30分
- 場所 石部まちづくりセンター 中会議室
- 出席 委員 8名
事務局 4名

1. 開会

司会:

- ・欠席者の報告
- ・配布資料の確認

2. 報告事項

会長:

報告事項の「湖南省男女共同参画アクション2017計画」改訂スケジュールの変更について事務局から説明を。

事務局:

《資料1に基づき説明》

会長:

事務局から計画改訂のスケジュールについて説明があった。質問、意見があれば。

(質問意見なし)

ご質問、ご意見もないようなので、改訂スケジュールの変更については、内容をご理解いただいたものとし、令和4年9月に計画改訂予定ということで、事務局に作業を進めていただきたい。

3. 協議事項

会長:

協議事項の「湖南省男女共同参画アクション2017改訂版(骨子案)」について事務局から説明を。

事務局:

《資料②、③に基づき 第3章まで説明》

会長:

事務局から資料②、③第3章までについて説明があった。質問、意見があれば。

委員:

意見 13 ページのアンケート回収率が非常に低い。正確なデータが必要なので、100%とはいかないと思うが、回収率を上げるようなアナウンスなど工夫をしていくことも大事。事業所の方を見ると46%ぐらい。若干上がっているが、どちらも50%ぐらいの回収率が欲しい。

事務局：

アンケートの回収率は5年前の調査も同じぐらい。他市も30%~40%で推移している。次回5年後の調査では、ネットや紙と併用するなど回答のしやすい方法での実施を考えている。

副会長：

そろそろスマホやネットのアンケートに移りつつある気がしている。コロナのワクチン申し込みもネットやスマホ、LINEを使う等いろいろなことをやられていた。高齢の方もそれに対応されている。5年後はさらにスマホで答えるハードルがそれほど高くなく、かつ真面目に回答いただける可能性が高くなってくると思うので、ぜひ検討いただきたい。

7ページの5番。新型コロナウイルス感染症拡大による社会の動向の分析の部分。去年までは、7ページの上から3行目で書かれたように、テレワークを使うのは時間が有効という社会状況だったが、今年度に入って、少し流れが変わってきたように思う。テレワークも良いが対面はより良い。学校現場でもそうだと思うが、流れが去年とは違うかと思う。コロナを長く経験するほどテレワークはそこまで万能ではないというのが見えてきたと思うので、テレワークの有効な点が何か、また対面の有効さは何かをきちんとそれぞれ分析しないと女性の働き方などそういったものの改善には繋がらないと思うので、ここをもう少し慎重に書いていただきたい。コロナによって女性の経済的な状況がかなり悪い影響を受けている。テレワークができれば良いというだけではいけない。

9ページの女性労働力率。見慣れたM字カーブのMがMでなくなってきたのは全国で言われている。滋賀県は10年程前Mだったが、もうMに見えなくなっている。湖南市もその通りかと思う。次は何が問題になったかという、L字カーブ。正社員率がMのように上がってこないということ。出産、育児を契機に一旦仕事を離れた方。あるいは仕事を続けていたとしても、正社員としての復帰ができず、パートでの雇用になってきている。まずコロナウイルスの影響を受けるのが非正規の方々だったので、その問題を考えると今あるデータはM字カーブのデータで構わないが、今後L字カーブにも配慮が必要なこともどこかに書いていただきたい。

委員：

概要版2ページ、学校での副読本の活用率が極端に減っている。コロナの影響かと思う。子どもが家庭で生活するようになって、女性が大変と聞く。そういった現状の中でこういう時期こそ、学校の宿題等で家庭で副読本を活用して話し合うという時間をとればと思った。学校現場はどういう状況か。

委員：

昨年5月末まで休校。2か月間の休校があったために、国で決められている授業時数の回復ができない。学校行事もどんどん中止にして、昨年は教科以外のことを行うのが難しかった。本計画の策定時は活用率76.9%だったが、昨年の状況で46.1%はまだ数値がある方。ただ、男女共同参画以外にも様々な副読本が送られてくるが、なかなか手が回っていないというのが現状のところもある。

委員：

母親が毎日子どもを見ていかなければいけない時に話題提供などの機会に家族でそういうものを読んでいただけで良かったのかなと思いついた。

副会長：

確かに授業は大変だったと思う。今後小学生の副読本でプライベートゾーンを教えることについて記載があるのでぜひ使っていただきたい。今新聞等で子どもへの性暴力がかなりきついものが話題となっているが、その時にプライベートゾーンという考え方を子どもたちに教えておくと、ここは親であっても簡単に触ってはいけないところがあるということ、嫌だと言って良いことを教えておく、そのきっかけに副読本がなればいいと思う。コロナもちろん大変だがこの子どもたちを守るということからも、ぜひ活用いただけたら。

委員：

プライベートゾーンについては、教科の保健でも教えている。小学校2年生の性教育の部分でも、毎年行われているが、副読本を使っているかについては弱い部分があると思うので検討していく。

続いて質問。同じくその副読本の活用の上にある学校で男女平等になっていると答えた女性の割合とこのところがあるが、これが半分しかない。どういうところが平等になっていないといったコメントがあったのか。

事務局

原因は今回の調査結果からは分からない。他の市町とも似た傾向にある。教育の部分が男女平等と思っている部分が50%少し超えるぐらい。それ以外は20%台で低い。他の分野に比べては一番高い状況。

委員：

教員数で言えば、小学校では女性の職員の方が多い。中学校でも半々。子どもの委員も半々が多い。男女平等の数値が高いと思い、どういった部分でそのように思われているのか、分かったら知れたかった。

委員：

ファミリーサポートセンターと子育て支援センター等の利用者が少ない。コロナが原因で減ったという理由は分かるが、湖南市は、そこで具体的にどういった支援をされているのか。

事務局：

福祉部局を中心に展開している事業で、ファミリーサポートセンターに関しては子どもを預けたい時に預ける人がいない時に預かってもらえる。子育て支援センターに関しては、保護者と子どもが悩みの相談をしたり、未就園の子どもが親と楽しめるような事業をしている。

会長：

成果指標実績推移の分野3の地域や家庭の部分。DVを我慢したと答える人は女性の方で60.5%。前回調査よりは若干少なくなっているかなと思うが、どういう意味で我慢したということか。市ではどういう受け止め方をしているのか。TV等では我慢するより爆発するような形でDVのニュースに出ている。

事務局：

今回のアンケートの結果で言うと、他に「イライラして誰かに当たった」という選択肢もあり、前回の平成27年度の調査と比較すると、イライラして誰かにあたった数値は増加しているので、会長がおっしゃるような爆発したというようなこともあるかもしれない。今回の調査では「我慢した」という回答は、どこにも相談できず一人で抱え込んだという人と捉えている。新型コロナの関係で言うとDV相談は年間20件くらいだが

令和2年度は27件。国県と比べると相談件数が急激に増加しているわけではない。我慢した人の割合も高く、相談機関の周知ができていない部分が目標を達成していない原因としてあるかもしれない。

委員：

地域や教育の副読本に関しても家庭でということが表に出ているが、事業所は男性の正社員が多く、役職に年齢の高い人が就いている。その辺から考えると、事業所に対してのアプローチ、教育・啓発の場を持ってもらって、年配の事業所の男性、女性に伝わっていけば、家庭でも話していただける機会になり、意識の改革を得られるのではないかと思う。全て家庭と言われてもそういった機会を持ちづらいし、子どもにも伝えていきづらいというのを感じている。

委員：

弊社は製造業で、あまり会話する時間がない。稼働日に対して目標の生産数がある。その中で教育・啓発の時間を確保するのが難しい状況。業種によって異なるが、もっとノルマが高いところもある。そういった状況でも企業としてもその機会を持っていかないといけないとは今のお話を聞いて思った。

会長：

様々なご意見があったが、時間の関係で次に進めていきたい。計画改訂骨子案の第4章以降について事務局より説明を。

事務局：

《資料②、③に基づき 第4章の説明》

会長：

第4章計画について事務局より説明があったが、計画に追加した方が良い点や不要な点についてご意見をいただけたら。

副会長：

41 ページ。無意識の思い込み、アンコンシャスバイアスの解消は日本では今後キーワードになってくると思うので、ぜひ入れていただきたい。まだまだ聞きなれない言葉なので、言葉の意味やそれに気づくためにはどうしたら良いのか啓発にも努めてほしい。それと男女平等という言葉が消えたわけだが、先程の説明では男女共同参画に含むということだったが、私は反対意見を申し上げたい。男女平等という言葉よりもぜひジェンダー平等という言葉を使っていたいただきたい。最初の方にSDGsの説明があったが、そこでジェンダー平等という言葉が使われてきてやっとジェンダー平等という言葉が市民権を得たと思っている。男女平等ということがかつては言っていたが、それは結局ジェンダー平等のことでそれが目標だったというのが今の考え方になっていると思う。男女平等という言葉ははずしても構わないが、ジェンダー平等という言葉を入れていただけるよう検討してほしい。

事務局：

ご意見を踏まえてジェンダー平等の追加を検討する。

会長：

これからの計画改訂で、全て分野で男女平等になって欲しいと思っている。他にご意見あれば。

委員：

日本の社会において、企業の大人に向けて男女共同参画の啓発や教育指導をしても遅いと思う。育ってきた家庭や学校の環境で男女平等だったか、ジェンダー差別があったかなどによって30, 40, 50歳になってきたら男性なら・女性ならこうして当たり前という考えが身に染みている人が大多数。小学校や保育園に行っている小さい間に家庭や教育現場で役割分担は男女関係なく、できる人ができることをやるということを教育しないと、男女共同参画社会になるのは難しい。個人の意識の改革だと思う。ぜひ小学校など教育現場で行っていただきたい。

企業で研修をして、社長や管理職も男女共同参画の考え方に賛成していても、いざ自分の会社への展開は難しいと思う。小さいころからの積み重ねが大事なのではないかと思う。

委員：

今おっしゃられたようなことは学校でも進んではいる。昔なら重い物を運ぶのが男の子とか、掲示物を貼って欲しい時は女の子と言っていたが、現在では、「誰か運んで」など、男の子や女の子と言わない。名前も今は男女ともに「さん」で呼んでいる。各委員会の委員長は女性の時もあるし、そういったところは男女平等というかやれる人がやっていく、やりたい人がやっていく形に変わってきている。

委員：

10 ページ、11 ページ。議会の女性の割合、管理職の女性の割合、湖南市では進んでいるよう。しかしながら、小さな単位の自治会長、区長は少ない。60代以上の人は、若い時に専業主婦になって、家事や子育てに専念される人が多かった。最近はその改善されて女性もバリバリ仕事をされる。管理職や議会の方は身分も保障されているし、賃金も保障されているので、女性も頑張っていけるが、地域ではボランティア的になってしまう。家事と自治会の仕事の兼務が大変。家事のレベルを落とすくなかったら、自治会の仕事に手をあげづらいのは感じる。そういう時はつい男の人をお願いしますと今までなってきたのではないか。最近では改善されているが、女性の方も働く方が多く、家事分担をされているので家庭の仕事と自治会の仕事の重荷になることは少ないかもしれないが、私たちの時代の人は、負担に思う人が多いかもしれない。最近の夫婦は一緒に買い物や家事をされていて改善されている様子もあるように思う。地域で役を引き受けることも解消はされているのかと思うが、天津市などと比較すると、湖南市は区長・副区長が女性の割合が半分以下の値になっている。地域の昔からの慣習、風習が根強いこともあると両方感じている。

会長：

私自身は年齢が上なので、女性に家事を任している部分も多いが、若い人は料理を一緒に作る人も多くいる。家庭でも会社でも役割分担をしてもらえたらと思う。私の世代は、学校でも性別によって役割分担がある教育であったので、そういう意識がまだ少しある。徐々に家ではできることをやるようにはしているが、これからは男女平等という形で進んで欲しいと思う。

委員:

弊社の求人票だが、昨年までは転勤有りと書いていたが、今年度は転勤ありを求人票から抜いた。すると昨年度1名の応募だったが、今年度10名応募があった。条件を書かなかったことにより、求人が増えたかどうかは不明だが。就職して、夫婦として一緒に協力して暮らすと考えているのはあるかと思う。

また、最近の若い人は、少々重いゴミでも男女関係なく捨てに行く。手が空いた男性が持っていったら良いと考えていたが、若い男性や女性も積極的に持っていつてくれる。会社の中でも若い方はそういった意識があるかもしれない。

副会長:

転勤を求人票からなくすことは思い切ったことをされた。学生は転勤があるかないかでイメージが変わる。どこに就職するかによって人生のスケジュールが変わってくる。将来的には転勤があったとしても、最初に転勤がないというのは、これからのライフスタイルが検討しやすい。ぜひ続けていただきたい。

委員

DVを我慢したという人が多いことはショック。子どもに対する虐待等にしても強い人が弱い人を力で押さえつけるというのは、相手の人権を尊重していない。相手を尊重するということが根底になかったら、男女だけいくら平等になってもジェンダー平等は何を含んでいるのかなと思う。家庭や学校で我慢をしていくことがあってはならない。弱音を吐いても良い、相談しても良い、そういった世の中を作っていないとジェンダー平等というのは達成できないと思う。

会長:

男女関係なくお互いに支えあって、助け合うことが大事かと思う。

事務局は本日の意見を十分に参考にして計画改訂を進めていただきたい。

4. その他

事務局:

本日いただいた意見や今後庁内ヒアリングを行い改訂の素案を作成し、1月頃最終の懇話会でお示しさせていただきます。早めに日程調整をさせていただくので、次回の会議もぜひご出席をお願いしたい。

5. 閉会

副会長:閉会あいさつ